

平成 29 年度 宮城県食育推進会議 会議録

1 日時：平成29年10月3日（火）

午前10時から正午まで

2 場所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

3 出席委員（敬称略）

我妻武昭，伊藤秀雄，齋藤浩美，佐々木裕子，佐藤敏悦，佐藤眞智子，
白川愛子，菅原辰雄，鈴木久直，鈴木宏明，高砂淳子，高橋優子，内藤忠志，
平沢初枝，村上裕子

4 議事録

司会（健康推進課）

本日は，お忙しい中御出席を賜りありがとうございます。

はじめに会議の成立について御報告申し上げます。本審議会は，16名の委員で構成されておりますが，本日は15名の御出席をいただいております。県の食育推進会議条例第4条第2項の規定により，過半数の委員が御出席ですので，本日の会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

次に，会議資料の確認をいたします。

会議資料は，次第と出席者名簿の他に，資料1から資料4と参考資料でございます。他に第3期プラン概要版を机上に配布しております。

それでは，ただいまから，「平成29年度宮城県食育推進会議」を開催いたします。開催に当たりまして，宮城県保健福祉部部長 渡辺達美より御挨拶申し上げます。

（渡辺部長）

会議の開催にあたり，一言御挨拶を申し上げます。

本日は，たいへん御多忙のところ，御出席をいただきまして，誠にありがとうございます。

委員の皆様には，日頃から本県の食育の推進に御支援と御協力をいただき，この場をお借りして感謝申し上げます。また，今年度，新たに4名の委員に就任いただきました。御快諾いただき，御礼申し上げます。

当会議は，食育基本法と食育推進会議条例に基づき，本県の食育推進計画の作成及びその実施の推進について御審議いただく場として，平成18年4月に設置しております。皆様には平成30年4月までの任期となりますが，それぞれの御専門の立場から，御助言，御指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

さて，食育につきましては，平成28年4月から国の所管が内閣府から農林水産省に移管されましたが，これまでの食育の施策は引き継がれ，政府全体で推進していくとされています。

本県では，平成28年度から「第3期宮城県食育推進プラン」がスタートしています。この第3期プランでは，第2期プランの取組状況の評価や県民の健康や栄養の状況などを踏まえ，計画のコンセプトを「次世代へ伝えつなげる食育の推進」とし，望ましい食習慣の形成期にある子どもや若い世代を中心とした食育に重点的に取り組んでおります。県といたしましては，市町村をはじめ関係機関，団体の皆様の御協力をいただきながら，県民の皆様とともに，食育の一層の推進に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

本日の会議では，第3期プランの概要について御説明し，その後，県の取組状況について御報告させていただきますとともに，第3期プランの目標値の設定や県として重点的に取り組むべき課題について，御意見を賜りたいと存じます。委員の皆様には，忌憚のない御意

見をいただき、みやぎの食育推進のためにお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

司会（健康推進課）

本日御出席いただいております委員の皆様を御紹介させていただきます。

（名簿順に紹介）

宮城県中学校長会の鈴木久直委員，宮城県PTA連合会副会長の村上裕子委員，宮城県農業協同組合中央会の我妻武昭委員，日本チェーンストア協会東北支部の内藤忠志委員が新たに委員に就任されましたのでご紹介いたします。

続きまして，県の職員を紹介いたします。保健福祉部長の渡辺です。健康推進課長の岡本です。健康推進課技術補佐の佐藤です。私は本日司会を務めます片倉です。そのほか担当班と庁内関係課の職員が出席しております。

なお，本日の会議につきましては，情報公開条例第19条の規定に基づき，公開するものとされておりますので，よろしくご願ひいたします。ここで，本日御出席いただいております，委員の皆様をお手元の名簿順に御紹介させていただきます。宮城県医師会奥村委員につきましては，本日欠席とのご報告をいただいております。

司会（健康推進課）

それでは，ここからの議事進行は佐々木会長にお願いいたします。佐々木会長，よろしくご願ひいたします。

議長（佐々木会長）

はい。それでは皆様のお手元の次第に従いまして，議事を進めてまいりたいと思います。

ではまず，議事の（1）「第3期宮城県食育推進プラン」の概要について，事務局から説明をお願いいたします。

事務局（健康推進課）

（資料1により説明）

議長（佐々木会長）

皆さんから御質問をお受けしたいと思います。新しい委員の皆様大丈夫でしょうか。

食育は，国の管轄が農林水産省へ移ったことで，重点施策2「食材王国みやぎ」の理解と継承の要素が強くなっているように思います。今日，ご出席の方々にご意見を頂戴しながらすすめるとともに，ご活躍を期待したいと思います。

健康づくりに働きかけるものは21健康プランですすすめていき，私たちは食環境整備をきっちりやっていきたいと思ひます。

宮城県は，広く，食育も色々な部局が連携して食育をすすめています。国からは，チームワークが悪いところは数字が上がらないと言われていひます。協力してすすめ，盛り上げていきたいと思ひます。

それでは，資料2「第3期宮城県食育推進プラン」の平成28年度実績と目標値，3「県関係各課食育関連事業」，4「平成29年度みやぎの食育推進戦略事業」について事務局から説明をお願いしひます。

事務局（健康推進課）

（資料2，3，4参考資料により説明）

議長（佐々木会長）

ありがとうございました。

県でも様々な取組を様々な場所で実施していただいております、感謝申し上げます。

特に県からご紹介したい事業があるとのことですので、「スマートみやぎプロジェクト」「メタボリックシンドローム対策戦略事業」「食育・地産地消推進事業」について担当課からご紹介いただき、委員の皆さまからもご意見をいただきたいと思っております。

事務局（健康推進課）

資料をもとに説明

議長（佐々木会長）

ありがとうございます。それでは、食産業振興課をお願いします。

事務局（食産業振興課）

資料をもとに説明

議長（佐々木会長）

ありがとうございました。資料3「県関係各課食育関連事業」をご覧いただいておりますが、部局ごとの予算額に差があるなどと思って見ていました。予算を多くつけていただくとありがたいです。

ここからは皆さまからご意見を頂戴していきたいと思っておりますので御協力をお願いします。

基づく資料は、資料2「第3期宮城県食育推進プラン」です。資料2をもとに実績と目標値についてご意見をいただきたいと思っております。

第3期プランの目標達成が私たちのお役目でもあります。委員の皆さま、ここが気になる。ここは、自分たちのエリアなのでやります。また、ここはこうした方がいいのではないかと、県にこうしてもらいたい。などご意見を頂戴したいと思っております。

まずは、食育を通した健康づくりからまいります。

（村上委員）

小学校6年欠食児童の数値が気になりました。学年が上がるごとに数値があがるということでしょうか。低学年は親と一緒に食事をするが、学年があがるごとにこのような傾向になるのでしょうか。

回 答 （スポーツ健康課）

本数値は、小学校6年生及び中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査によるものです。そのため、小学校6年生と中学校3年生の比較では、食育推進基本計画のベースとなっている平成26年度が小学校6年生96.8%、中学校3年生94.6%であり、平成29年度については、速報値で小学校6年生95.8%、中学校3年生で93.9%となっており、中学生の朝食喫食率が低い現状となっています。

（高砂委員）

小学校というお話しでしたので、統計データが手元にないのですが、お話しします。

早寝早起きの基本的な習慣ができていないと、朝ご飯が食べれない。高学年になるとより、その傾向があります。ゲームをしていて夜、遅くまで起きていると、朝起きれないということになる。家庭での食習慣という問題と生活リズムの両方が影響するのではないかと考えます。

(平沢委員)

私が、一番見なくてはいけない数値が4「みんなで支えあう食育」についてです。

プランの目標指標の「みやぎ食育コーディネーターによる食育推進活動への参加人数」の実績についてみていくと、イベントに多くの方が興味をもって参加している数値でありがたいな。目標も達成しており喜ばしいことと思います。

参加していただく側に立ったとき、みなさんどういう風感じてきたのかと思います。

例えば一つのイベントの中でも「野菜に対する興味」、「出汁に関する興味」など、それぞれ興味を持って参加しています。コーディネーターとしては、具体的に活動で取り組んだ内容も掲載していくと良いと思いました。多くの県民の皆さんが参加してくださって嬉しいです。

(高橋委員)

宮城県栄養士会理事をしている高橋です。

宮城県栄養士会は、学校、公衆栄養、行政、福祉施設、病院等でライフステージすべてにわたって栄養士が働ける食の団体です。

「食育を通じた健康づくり」の目標指標の中で、「メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合(40～74歳)」で多少ではありますが効果があったことが良かったと思います。

「3歳児のむし歯のない人の割合」については、栄養士は、公衆栄養分野で各市町村の3歳児検診で歯科医師、歯科衛生士と連携して実施しており、改善しており、数値が良くなって良かったなと思っています。

野菜の摂取量、栄養成分表示、主食・主菜・副菜を揃える、栄養成分表示などはイベント等でPRしている。県民はそのことについて分かっている、働く女性が多い社会である状況から野菜を1日350g採ることは難しいのかなと思っています。

県の栄養士会のイベントを紹介します。いい日・いい汗栄養まつりでは、ライフステージごとに、栄養士が工夫を凝らして、見たり、体験、試食をしたりと健康について考えていただくイベントを行っています。

例えば、体組成等体験していただいたり、公開講座でナトカリ比のバランスについて講師の先生にお話しいただいたりしています。

その他にも、宮城県と連携して「みやぎサテライトステーション」の健康相談会に月2回栄養士を派遣しています。その他、健康講演会、被災地の健康教室などにも参加しています。

(高砂委員)

肥満傾向児の出現率ということでお話しをしたいと思います。

本校でも年度初めに校医の先生による健康診断を実施しています。肥満傾向の児童が多く、男子が10%程度です。女子が11%程度で少し高い傾向です。今日お示しいただいた数値からするとわが校は、それほど高い方ではないのかなと思いますが、校医の先生から栄養教諭と連携した取組を求められています。

小学校では、学校保健委員会を年1回または2回開催しています。本校では年2回、学校保健・学校給食委員会という名称で、健康診断の結果や体力・運動能力テスト等の結果を検討する内容で実施しています。

食習慣で見ると間食が多いですね。24時間食べものが手に入る状況にあり、ちょっと店に寄って何かを買って食べる。ついでにデザートも買うといったように、外食が多く

なっている状況にあるのではないのでしょうか。また、味の濃いものは美味しいと感じてしまいます。

校医の先生から「味の濃いものは避ける。間食はしない。炭酸飲料をやめる。スポーツ飲料を水代わりに飲ませるのは良くないですよ」と話していただいています。また、歯科校医の先生からも、「間食と飲み物、食べるタイミングが大切です。作り置きをしておいて、子どもがお腹が空いたときに食べさせるようにするといいです。」といったお話をいただきました。

この会議には、保護者の方にも地区代表として出ていただいております。保護者の方から「本当に反省しきりです。」という声も聞かれます。すぐに、全校児童の家庭に広げるのは難しいですが、保護者への働きかけとしてこのような場も活用しています。

また、小学校では、生涯にわたって自分の食生活を自分で考える子どもを育てていく目的で食に関する指導の全体計画を作成しています。学級活動や体育の中で学年ごとのテーマを決めて、担任と栄養士、栄養教諭、養護教諭が協力して授業を実施しています。

給食の時間を活用して、その日の給食にどんな食材が使われているか、給食や食べものに関心を持たせるような一口メモを毎日配布するなど小さな取組を学校の中で実施しています。

私の話は、県への要望というよりは、学校の取組として委員の皆様を紹介しました。

(鈴木委員)

食育の基本は口腔機能だと私たちは思っています。

第2期宮城県食育推進プランでは「3歳児の一人平均むし歯数」は目標を達成して、第3期プランでは、「むし歯のない人の割合」という項目に変わっています。

現状をお話しますと2極化が進んでいます。

先日、3歳半健診に行きました。どうしようもないお口の子どもと家族がいます。歯科医院は、そうした人たちがむし歯になって来るところです。どうしても親を教育してしまっ「もう来ない。」ということになってしまいます。歯科医師としてジレンマがあります。

口腔の健全な発育、発達についてお話しをします。赤ちゃんの時、乳首をのどの奥までくわえ込んでお乳を吸うのが基本ですよということをこれまでお話ししてきました。最近はそのことに加え、与えない工夫も必要かなと思っています。見せておいて、自分から進んでいく。自分から食物を食べなければいけないという気持ちを持たせることが大切だと感じています。

ここ10年くらいで子どもの感じが変わってきています。何でもすぐに与えずに一步止まって、子どもから進んでいくようにすることが活力の低下や、やる気のなさを防ぐことにつながっている気がしています。

次にプランについてお話します。重点施策2「食材王国みやぎ」理解と継承の中の「食文化の継承」はすごく大事だと思います。昔、しつけと言われていたことが大切だと以前にもお話しましたが、食文化の継承として宮城県としての取組が見えない感じがします。

極端な話になりますが、戦後出てきた食べものを食べない。ファーストフード、ジャンクフードは大人の楽しみとしては良いですが、体を作る時期の子どもにはあまり食べさせたくないですね。何かの時、たまに食べさせるのは良いですが、毎日の食生活には加えたくないです。

食文化の継承として県がどのような取組みをしているのかお聞きします。

回 答 (スポーツ健康課)

「子どもの健康を育む総合食育推進事業」において、食育担当者の資質向上と学校給食メニューに郷土食を取り入れることを目的として「学校給食伊達な献立コンクール」を開

催しています。

また、地産地消の観点から、郷土料理を給食に取り入れ、データベース化する取組を行っています。

回 答（食産業振興課）

食育・地産地消推進事業において食材王国みやぎ「伝え人（びと）」登録・活用推進を行っています。

伝え人（びと）に登録している「みやぎの食を伝える会」では、小学校、児童館等で伝統食材、伝統食を伝える取組を行っています。

（鈴木委員）

食文化の継承には、家庭に入り込まないといけないと私は思っています。なるべく、家庭でできるようなことを考えて実施してほしいと思います。

味の濃いものを好む傾向がありますが、歯がちゃんとしてないと薄味で美味しい味を絞り出すことができないのです。ですから、正常な口腔機能を作りあげていかなければならないのです。

（鈴木委員）

我が校は、部活動が盛んな学校ですが、肥満率は県の数値に近い数値です。特に女子の方が高く2極化がすすんでいます。

8割の生徒は、部活動をきちんとしています。中学生の生活を見ると、スマホの影響で夜寝ていない生徒もおり、生活全部を見直さないと食育は難しいと思います。

質問ですが、ヘルスサテライトステーションを実施していることですが、中学生も気軽に参加できるようPRしてほしいです。

（内藤委員）

（実施内容について内藤委員より説明。）みやぎヘルスサテライトステーションは、8月4日にイオンモール名取店に開設し、3月31日まで実施しています。

（鈴木委員）

名取市の学校給食の食材についてお話しします。名取市では、給食センターから、給食で使われる食材がどこで取れたものなのかお知らせいただいています。その情報を生徒たちへ放送等で伝えられれば良いと思います。

（菅原委員）

子どもたちの欠食について気になっています。学校生活にどのような影響があるのか心配です。これは、親に99%責任があると思いますので親の意識改革に取り組んでほしいと思います。

例えば、コンビニに行くと、中学生を多く見かける。食の意識の改革に取り組んでほしいと思っています。

グリーンツーリズム関係で見ると、目標指標の「農業体験学習等に取り組む小中学校の割合」では、71.2%は農業体験をしている。山形県も行きやすいとは思いますが、できるだけ、県内の農村で体験してほしいと思っています。

受入側として、学校として農家民泊に行く際どういう点が問題か、どんなことで悩んで

いるかお聞きしたいと思います。

(鈴木委員)

前任地の学校では、奥州市に行っていました。今年度は加美町に行っています。

生徒数250名を超えているとなかなか受け入れ先を見つけるのも難しいです。

受け入れ先の体制はしっかりとしており満足していますが、農業ですので、季節や天候に左右されます。田植えや稲刈りシーズンはなかなか入り込むのが難しく、雨天時の活動の問題もあります。

また、アレルギーを持つ生徒が増えており、食べものだけでなく、ねこや犬などのアレルギーも調べていけない状況もあります。

(菅原委員)

南三陸には海も山もあるので是非、お越しいただきたいです。いろいろなメニューを準備しています。

(我妻委員)

J Aグループでは、重点施策「食材王国みやぎの理解と継承」が大きく関わる部分です。農業体験や地場産品の利用、農産物直売所ファーマーズマーケットの売り上げも伸びているというお話しですし、郷土料理も学校給食への利用が増えていることに感謝申し上げます。

J Aグループでは、「食育」を「食農教育」という名称で活動を実施しています。農業を教材に活動しようという取組です。

食べものができるまでの背景、農業と地域の人たちの関わり等、食と農がどういう結びつきをしているかなども体験していただければなと思っています。

「農業体験学習等に取り組む小中学校の割合」については約7割が実施しているということですが、J Aも、宮城県内14 J Aのうち13 J Aがこの取組を実施していますので、J Aも関わっていると思う。

目標値が100%となっており高いなと感じました。全学校に実施するのが難しいかなと。目標ですので良いと思いますが。

宮城県にお世話いただき、学校給食会を通して県内33市町村へみやぎ米約10,000俵を提供しています。角田市と栗原市は独自の取り組みを実施しております。

野菜の割合が28%から28.5%に少し上がったがということですが、野菜はまだまだです。大崎市でも取組始まっています。

J A仙台が運営する農産物直売所たなばたけでは、仙台市内7小学校に週1回野菜を提供しています。量と体制、価格の問題があり、伸び悩んでいるのが現状です。是非、県の事業でマッチングさせていただけないかと思っています。

重点施策「食育を通じた健康づくり」の中の目標指標「朝食を食べる人の割合」についてお話しをします。平成28年に農水省がご飯を食べる割合を年齢別に調べたところ、20歳代で月1回もご飯を食べない人が男性1割、女性2割いました。朝食を食べないこととは別ですが、米の消費は、毎年8万トンづつ減っています。お米の栄養価を伝えること等も含めて、消費PRや食育活動をすすめていきたいと思っています。

(内藤委員)

食育推進計画では、子どもや若い世代の改善が必要となっていますが、私としても難しいと感じています。

イオンモール名取で実施しているヘルスサテライトステーションも若い世代をターゲッ

トとして若い世代への健康機運を高めることが大切なのですが、宣伝不足ということがあるのかこの世代はあまり健康に関心がない、気にしていません。

様々な取組を実施していますが、参加者はシニア世代が多く、若い世代を集客するために、粗品プレゼントを多くしすぎても本末転倒になってしまいます。

自分の10年後、20年後の健康を見据えた人たちの集客が大きな課題になっています。健康推進課とともに相談しながらすすめていきたいと思っています。

「食材王国みやぎの理解と継承」では、食材王国みやぎうまいもの市をイオン11店舗で実施しています。10月の食材は牡蠣で、様々な調理方法を提案し、試食会を仕掛けています。みやぎうまいもの市は、水産物に限らず、みやぎのおいしい農産物で年2回実施していきます。

(伊藤委員)

部を越えて実績をとりまとめていただき、職員の皆さまありがとうございます。食育関係予算がアップしており、内容の充実がみられます。

何点か質問や意見をお話ししたいと思います。

目標指標「肥満傾向児の出現率」についてです。データの取り方ですが、郡部と都市部を比較するデータがあるとそれぞれの傾向がわかると思います。

郡部では、小学校の統廃合の影響もあり、親の送迎等が増えています。より郡部の方が歩かない傾向にあると思います。

また、学校給食に関する連携で、PTA、学校、生産者の連携が具体的にどのように行われているか知りたいです。その連携の結果として、子どもたちはおいしい料理（給食）を食べることにつながります。同時に、子どもたちが、地元の生産物に対する興味を深めていってもらえる取組、食農教育を実施していきたいと思っています。

登米市ではコミュニティスクールという取組みがあり、地域の人が地域の取組を支援しています。基本は、地元が応援することが良いと思っています。

では、仙台市内の学校はどうするのということになりますので、予算等も考慮して、県内で分散して受け入れていくと良いと思います。

先ほどお話しがあった「食材王国みやぎの理解の継承」の中の目標指標「農業体験学習等に取り組む小・中学校の割合」について、目標値の100%については、産業振興審議会が私が提案しました。体験という重いのが、生産者からお話しを聞くだけでも良いということになっています。何らかの形で生産者や農業に関わりをもっていくことが目的ですので、私も協力していきたいと思っています。

食産業振興課が実施している食材王国みやぎ伝え人の登録は現在、33名。予算を多く取って100名くらいの登録に広げてほしいです。1団体あたり、2~3回呼べるような仕組みにしてほしいです。特に、仙台市内の小中学校に必要なことだと思います。

回 答 (スポーツ健康課)

平成28年度から宮城県児童生徒の健康課題調査により、市町村別の小中学生の肥満率を調査しています。その結果、郡部の方が肥満傾向が高くなっています。しかし、理由については、明確に検証されていません。

連携については、設置自治体によって異なりますが、自治体主導で生産者との連携をとっていたり、学校独自で連携を図り地域の食材を学校給食に取り入れたり、児童生徒の食育に関わっていただいたりする等取組は様々です。

P T Aとの連携については、各学校の学校保健給食委員会等の会議や市町村の学校給食運営会議等で連携を図り、食品選定や献立作成に教員や保護者の意見を学校給食の立案に反映させるよう学校給食衛生管理基準でも定められているところです。

(齋藤委員)

保育所の立場でお話しします。

目標指標の中で「3歳児のむし歯のない人の割合」に関連しますが、保育所では、0, 1, 2歳児は、午前と午後におやつがあります。だから食いがいいので、0, 1, 2歳児はむし歯ゼロです。年2回、歯科検診を実施しています。

3歳児になると、徐々にむし歯が見られるようになります。3歳児で急に増えるお子さんもいます。5歳児でもむし歯のない子もいます。

一つの例をお話しします。特別な例かもしれませんが、その子はアレルギーのお子さんでした。市販のおやつは食べないのに、むし歯が多く、その原因がジュースを飲んでいたという事例がありました。むし歯につながっていたことにびっくりし、お母さんと歯の大切さを改めて確認したということがありました。

保育所は決まった時間に食事を食べていること、水を飲む、うがいをする、5歳児は歯磨きをしているところからむし歯の割合が少ないのかなと思います。

朝食を毎日食べる人の割合についてに関連しますが、保育所は、朝は7時15分から夜7時までの保育時間です。長い子だと11時間以上保育所で過ごしています。夜7時に帰った子がどう過ごしているのか、朝、元気がない、眠そう、朝食を食べていないということにもつながっています。

また、朝食を毎日食べるとことの「毎日」イメージですが、食卓でバランス良く食べている。または何でもいから食べている。保育所だと、パンを片手に来る子もいて、それも朝食を毎日食べることになっているのかと思うところもあります。

保育所では、お便り、保育参観などで保護者へお伝えしていますが、仕事をしていると親中心の生活リズムになってしまうところもあるのかなと思います。

保育士の立場からお話をさせていただきました。

(佐藤委員)

質問が二つあります。

一つ目は「食材王国みやぎの理解と継承」の目標指標「農産物直売所売上高」が20%近く伸びているが、県民の野菜摂取量が不足しているということは、買った野菜はどこにしているのか。贈答か、備蓄か数字が反映されていないのではと思います。

私も、食育コーディネーターをしています。個人情報の開示の関係もあるとは思いますが、コーディネーターそれぞれができることを市町村へ開示し、活動を広げてほしいと思います。コーディネーターはやる気があるが、活かしきれていないような気がしています。もっとコーディネーター制度について広くPRするなどしていただきたいです。

回 答 (農産園芸環境課)

直売所の売り上げは順調に伸びており、平成28年度推定売上高は107億円であり第3期食育推進プランの目標値を既に達成しています。

直売所の売り上げと野菜摂取量が比例しないとのことでしたが、直売所で購入する人の割合は一部であり、量販店や小売店での購入も多いと思われます。

また、直売所の売り上げには、米や畜産物、加工品等も含まれることから直売所の売り上げがすべて野菜の消費量に反映できるとは限りません。

県としても直売所支援に加え、量販店や小売店等での野菜購入量が増加するよう支援を

していきたいと考えています。

回 答 (健康推進課)

みやぎ食育コーディネーターについては、健康推進課のホームページや食育通信等へ掲載するなどしながらマッチングをすすめております。現在150名の方に登録をいただき、宮城の食育を後押ししていただいております。

今後も様々な機会を捉えながら、活動の場を広げていきたいと考えております。

(白川委員)

目標指標「1日当たりの食塩摂取量」は減少していますが、平成28年の国民健康・栄養調査では、宮城県の男性でワースト第1位と悪い結果でした。メタボは0.1%減少していますが、ワースト2位から3位なので、県民全体として改善していかなければならないと思います。

原因がどこにあるのか考えてみると、高校生以降の食育の取り組みが少ないと思います。高校生になると食も自立してきますので、自分自身の食事について、自己管理していかなければなりません。若い世代の食生活の乱れを改善するのは難しいと感じています。

まずは、食生活の改善と適正体重の維持を促すということについて、県全体で工夫の仕方を考えていく必要があると思います。

県の部局も連携して、例えば、宮城の野菜を使ったダイエットレシピ、減塩食事メニュー等連携した形でのアピールが必要ではないでしょうか。これらは、健康意識の高い人には、伝わりやすいのですが、そうでない人や若い人に伝える工夫もしていかなければならないと思います。

(佐藤副会長)

第3期プランについては、私自身も作成に関わりました。

成果を見て行くことが重要だと思います。目標値の乖離についてはもう少し長い目で見ながら、改善の方向性をさぐっていくべきだと思います。

悪化したものもあり、元々良くないものもありますので、各部局での取り組みをすすめてほしいと思います。

私からは、食文化の継承についてお話しします。

私は、マスコミの立場と郷土食の研究者の立場で出席しています。昨年までマスコミに勤務しておりました。6月に関連事業も終了して、今は自由の身になりました。

辞めたとたん、今年は、伊達政宗の生誕450年で講演等の依頼が多く入ってきています。仙台藩と伊達政宗の食文化について話してくれという内容が多いです。

講座のスタートは6月28日に宮城県庁で行われた講座で、食文化をどのように捉えて、どのように継承していくかという内容で県と市町村職員を対象に実施しました。とても刺激を受けましたという感想もいただき、嬉しく思っています。その後、月2回くらいのペースで活動をしています。

栄養士の方のグループとお話したときにこのようなお話しがありました。郷土食を取り入れると内容が偏るというお話でした。特定の料理しか出てこない。他の地域とどう違うのか知る機会がないというお話がありました。他の地域と連携や比較ができないということです。

例えば、地域の郷土食が他の地域と同じ内容だったりすることがよくあります。素材、作り方が少しずつ違ってきます。

例えば、気仙沼地域には「あざら」がある。一方で大崎地域には「粕煮」があります。栃木県や茨城県では大豆が入る同じような郷土食があります。

それらを対比することにより、自分たちの地域でどのように伝わってきたのかが分かる

ようになります。そして地域の食材、使える素材を見出すことができるようになります。

(佐々木委員)

委員の皆様ありがとうございました。

県も県民のために様々な施策を実施していただきましてありがとうございます。

今後も委員みなさんでがっちり組んで、すすめていきたいと思えます。

事務局（健康推進課）

佐々木会長，議事進行，ありがとうございました。本日は，限られた時間の中で，様々な観点から御審議をいただき，誠にありがとうございました。

第6期委員の任期につきましては，平成30年4月25日までの任期となっています。次年度の会議につきましては，委員改選後，7月頃を予定しております。なお，来年度のこちらの会議につきましては，年度前半に開催したいと思えます。具体的には今年度の取組をまとめまして，7月頃を目途に開催したいと思っております。開催が決まりましたら御通知を差し上げますので，どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして，「平成28年度宮城県食育推進会議」を終了いたします。本日はまことにありがとうございました。